

撚糸工連ニュース

2022年1月発行 第74号

発行：日本撚糸工業組合連合会

〒113-0034

東京都文京区湯島 1-3-4

TEL 03(5615)8974

FAX 03(5615)8975

<http://www.nenshi.or.jp/>

E-mail:info@nenshi.or.jp

◆年頭のごあいさつ

令和4年(2022年)1月
日本撚糸工業組合連合会
理事長 黒本憲治

新年明けましておめでとうございます。

2022年の始まりにあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

また、旧年中は当会の運営に対し、多くの方々にご協力いただきましたことを感謝申し上げます。

顧みますと、昨年の国内経済は、夏場の新型コロナウイルスの感染拡大を受けた緊急事態宣言の発出により消費が低迷するなか、半導体や東南アジアからの部品調達難の影響による自動車的大幅減産等、ものづくり全般に大幅な影響がありました。また、今後につきましてもコロナ禍に伴う供給制約や資源価格高騰を背景に世界的インフレ懸念が高まっており、様々な分野で需要を冷え込ませるリスクがあります。

こうした中、日本の繊維産業は、取扱品によるバラつきはあるものの前年対比では回復してきておりますが、一昨年の状況までは回復しておりません。我々撚糸業界も原油価格の高騰による繊維原料・副資材・電力料金等が高止まりとなっており、総体的に大変厳しい環境下におかれています。

当会といたしましては、業界の結束力を発揮してこの難局を乗り越えていきたいと存じますので、今後とも産地組合・組合員の皆様方におかれましては、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

◆繊維産業における「自主行動計画」のフォローアップ調査の結果について

繊維産業における「自主行動計画」の第5回フォローアップ調査（アンケート調査）が去る11月に実施され、当業界におきましても多数の組合員の方々にご協力いただきありがとうございました。

「調査結果の概要」

(1) 「自主行動計画」の周知徹底度合いについて

「調達部門」を除いて「未実施」が昨年比やや増加した。

「未実施」の平均値も上昇した。

(2) 「歩引き」取引の廃止について取引先との協議について

発注側・受注側とも「実施済み・実施中」の割合が増加。発注者側での主な「未実施」の理由としては、「取引先から『歩引き』されているため、『歩引き』をせざるを得ない」などの取引先の要請方法の改善が進んでいない」ことによる。その割合は引き続き5割以上の高率で推移している。

(3) 契約書などの書面化の徹底度合いについて

発注側・受注側とも「契約の書面化」はやや進んだが、発注事業者の改善が進んでおらず、5割近い。

受注側の2割が未だ実施できていない。昔からの商習慣として締結は不要との意見が多い。

(4) 引取期日を過ぎた在庫保管コストについて協議することの徹底について

発注側、受注側とも協議をすすめている率は9割で横ばい推移。発注側の「未実施」の理由では「取引先のルールやマニュアルの改善が進んでいない」が依然として4割を超える。

(5) 労務費の上昇に伴う取引対価の見直し要請に対する協議の徹底について

発注側、受注側ともに未実施が減少したが、6割強を占める発注側事業者の支払い条件の改善は依然として進んでいない。

(6) 2021年度(上期)に適用する単価の決定・改定にあたり、十分な協議の結果を踏まえ、双方合意の結果を反映できたと考える項目について

発注側、受注側ともに反映できている比率は昨年度に比べて低下。特に受注側での低下が大きい。

発注側で反映できなかった理由は「受注者から要請されなかった」が6割、受注側で反映できなかった理由では「発注者と協議したが、転嫁が行えなかった」が5割を占める。

(7) 下請代金の手形での支払い(受取り)の割合

発注側では6割、受注側では4割が現金決済である。手形の比率が30%以下の企業の比率は発注側では85%、受注側では75%にのぼる。

(8) 下請代金を手形で支払う(受取る)場合のサイトについて

発注側、受注側とも「90日以内」が6割を越える。90日を超える長期手形は発注側受注側とも減少している。また、発注側において「60日以内」は2割にとどまっている。

(9) 下請代金の支払いについて、約束手形の利用の廃止予定と具体的取組について

発注側は4割強、受注側は2割が「すでに利用廃止しており、それぞれ3割が「廃止検討中」である反面、発注側の6割強、受注側の8割弱は具体的取り組みに至っていない。

(10) 手形等のサイトを60日以内に変更する予定(具体的な協議等)について

発注側では「変更予定なし」が4割強、手形の利用廃止が4割弱である一方、受注側では「変更予定なし」が6割強、手形の利用廃止が2割強とギャップが大きい。

(11) 取引先と、サプライチェーン各工程における稼働率、生産性、付加価値、消費者に対する正価の信頼性の維持向上に向けて取り組んでいること

発注側、受注側ともに定期的な「取引先との面談機会の確保」「事業所・工場への訪問」が合わせて全体の7~8割を占めている傾向はコロナ禍においても変わらず。

(12) 働き方改革の受注側企業への影響、発注側からの影響について

「特に影響はない」が発注側では7割、受注側では5割。受注側において「急な対応の依頼が増加」「短納期での発注の増加」の割合が増加した。

(13) 知的財産に関する適正な取引を実現するために、利益分配や責任分担を明記するといった取組を実施しているか

「未実施」の割合は7割にのぼり、理由の6割が「知的財産が取引において存在しないため」である。

////////////////////////////////////

◆ 日本燃糸工業組合連合会第49回通常総会について

令和3年11月25日(木)、当連合会第49回通常総会が開催され、第48期事業報告、決算報告、第49期事業計画、予算等が承認されました。

////////////////////////////////////

◆ JFW JAPAN CREATION 2022 について

12月7日~8日、東京国際フォーラムにおいて開催された「JFW JAPAN CREATION 2022」

に当会傘下の組合員有志が「JYTねん糸」グループとして参加・出展いたしました。

出展企業：高野繊維(株)、藤田織物(株)、古市(株)、山甚撚糸(株)、
伊高撚糸(株)、(株)ビエント、湊田撚糸 以上7社です。



◆ 日本の繊維産業の現況について

12月15日開催の日本繊維産業連盟常任委員会におきまして、日本の繊維産業の現況について以下のとおり報告がありました。

一部の例外を除き、概ね2020年対比では回復しているが、2019年の状況までには至っていない。原油価格・繊維原料・素材価格はアップしている。以下概要を一覧表で示す。

品目		21年1-9月	20年同期比 (%)	19年同期比 (%)
原綿・原糸生産量 (t)	アクリル短繊維	72,658	120.7	83.0
	ポリエステル短繊維	60,747	101.1	94.5
	ナイロン長繊維	52,900	125.0	89.4
	ポリエステル長繊維	73,943	106.1	84.1
	綿紡績糸	19,440	120.1	81.5
	紡毛糸	4,037	86.9	71.1
織物生産量 (1,000m ²)	合繊維物	512,125	99.3	80.8
	綿織物	68,560	101.0	84.1
	毛織物	9,970	64.1	54.4
染色整理加工量 (1,000m ²)	織物染色整理	873,257	100.2	86.1
	ニット生地染色整理	276,511	107.7	92.3
ニット生地生産量 (t)	ニット生地	37,536	102.8	97.6
ニット及び織物製品 (1,000点)	衣服縫製品外衣	34,210	88.6	87.6
	衣服縫製品下着・補整着・寝着類	23,156	98.3	83.4
	ニット製靴下	76,084	75.7	63.1

項目		21年1-10月	20年同期比 (%)	19年同期比 (%)
1世帯当たり1か月間の 平均支出(円) (2人以上世帯)	消費支出総額	275,405	100.5	94.3
	食料品	74,348	99.2	100.6
	一般外食	8,098	93.7	69.1
	被服及び履物	8,256	97.2	78.4
	通信費	12,429	99.4	97.6
百貨店売上高(億円)	総額	33,765	103.7	73.1
	衣料品	9,029	100.1	65.5
チェーン店売上高(億円)	総額	108,256	103.8	105.6
	衣料品	5,878	97.5	80.8
自動車生産台数(千台)	乗用車	4,942	100.8	77.8
	トラック	870	117.3	92.8
	バス	54.8	102.8	61.4
住宅建築着工戸数(千戸)	持家	238	110.9	97.8
	賃家	269	105.3	94.2
	分譲住宅	203	100.1	90.2

項目		21年1-10月平均	20年同期比 (%)	19年同期比 (%)
原油価格 (US\$/バレル)	(ドバイ・東京現物・FOB)	67.3	162.6	106.5
繊維原料価格 (US\$/トン)	PTA(高純度テレフタル酸) ポリエステル繊維原料	672.5	139.1	87.8
	EG(エチレングリコール) ポリエステル繊維原料	684.3	148.8	118.0
	CPL(カプロラクタム) ナイロン6原料	1938.5	173.3	122.6
	AN(アクリロニトリル) アクリル繊維原料	2,301.3	208.7	180.8
繊維素材価格 (US\$/Kg)	ポリエステル長繊維	1.40	140.8	109.0
	ナイロン長繊維	2.48	140.4	109.7
	アクリル短繊維	2.51	159.6	122.2
	ポリエステル短繊維	1.13	144.4	109.9